

小学校中学年

- 1 主題名 かけがえのない「いのち」 指導内容 中3-(2)
- 2 資料名 「ハナコ」(自作資料)
- 3 指導について

本資料は、奈良県香芝市内で牧場経営をされている方から聞き取った話を基に作ったものである。子牛を産むために最後の力を振り絞る母牛の姿や、何とか子牛の生命を誕生させたいと願い、母牛を必死に助ける獣医師や父親の姿が描かれている。そして、子牛を無事産んだ後、母牛は静かに息を引き取る。

資料を基にして話し合いを進め、自分たちの生命もまた多くの人たちの力や願いによって支えられてきていることに気付かせたい。また、自分の生命と引き替えに、新しい生命を誕生させた母牛の姿を通して、生命の尊さに思いを巡らせ、生命への畏敬(いけい)の念を感じさせたい。

4 ねらい

自分の生命を引き替えにして子牛を誕生させた母牛の姿を通して、生命の尊さに思いを巡らせるとともに、自分たちの生命もまた家族や多くの人たちによって見守られ支えられてきていることに気づき、生命を大切にしようとする心を育てる。

5 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1 生き物の誕生を見た経験を出し合う。	○ 生き物が生まれてくるところを見たとき、どんなことを思いましたか。 ・ふしぎだなあ。 ・モンシロチョウが成虫になったときうれしかった。	・体験や感想を自由に出し合わせ、本時の学習内容にスムーズに入っていけるようにする。	
展開	2 資料「ハナコ」を読んで話し合う。	○ 元気のないハナコの様子を見ているとき、愛はどんな気持ちだったでしょう。 ・赤ちゃんのためにも、元気になってほしい。 ・いっしょうけんめいハナコの世話をしよう。 ○ やっと子牛が生まれたとき、愛はどんな気持ちだったでしょう。 ・よくがんばったね。 ・みんな子牛が生まれるのを待っていたんだよ。 ・本当によかった。 ◎ じっと動かないハナコを見て、愛はどんなことを思っていたでしょう。 ・ハナコは、最後の力を子どもの	・ハナコのおなかの中に子どもがいることに着目させ、ハナコの生命とともに、おなかの子どもの生命にも思いを巡らせることができるようにする。 ・二人がかりで子牛を取り出そうとしたお父さんや獣医さんの姿から、新しく生まれてくる生命を待ち望んでいたことに気付かせ、愛の喜びに共感できるようにする。 ・子牛を産むまでのハナコの姿や、父の言葉を手がかりにしながら、単に「かわいそう」だけでなく生命の重さやかけがえのなさについて考えられるようにする。 ・ワークシートに書き込んだり、ワークシートを友達と交換し合ったり	ワークシート

	3 自分が生まれたときの様子に思いを巡らせる。	<p>生命のために使ったんだな。・子牛は大切に大切に育てるからね。</p> <p>・ハナコの生命が子牛の生命になったのかな。</p> <p>○あなたが生まれたときの様子はどようだったのでしょ。家族から聞いたことを思い出してみましょ。・生まれるまで時間がかかって、とてもしんどかったと聞いた。・とてもうれしかったと言っていたなあ。・おばあちゃんたちも病院に駆けつけてくれたそようだ。</p>	<p>する活動を通して、より深く考えることができるよにする。</p> <p>・2年生の生活科での学習などを思い起こさせ、自分たちも家の人の様々な思いや願いのもとに生まれはぐくまれてきた生命であることに気付くことができるよにする。</p>	
終末	4 VTRを視聴する。	○ この資料の牧場の方のお話を聞きましょう。	・資料の題材を提供して下さった牧場の方の話をVTRで視聴することで、本時の学習がより深く子どもの心に響くよにする。	VTR

6 小学校第4学年での実践から

実際の学習では、資料を前半と後半に分けて提示した。特に、後半部分の子牛の誕生とハナコの死が、児童にとってインパクトがあったよである。主発問に対して黙々とワークシートに考えを書き込む姿が見られた。

【じっと動かないハナコを見て、愛はどんなことを思っていたでしょ。】

- ・さっきまでがんばって子どもを産んだのに。元気だったのに。何で死んじやうの。
- ・よくここまでがんばったな。全部の力をふりしぼったのかな。
- ・あともう少しの生命を、赤ちゃんを産むのに使ったんだ。自分より産まれてくる赤ちゃんを助けようとしたんだなあ。
- ・ハナコの生んだ赤ちゃん、大切に育てていくからね。
- ・子牛がハナコの生命を引き継いだのかな。

展開後段で、自分が生まれたときのことやこれまでの成長を振り返った際、子どもたちは2年生の生活科の学習などを思い起こし、自分自身が多くの人々の愛情に支えられて誕生し、育ってきたことを再確認することができた。

【自分が生まれたときは、どうだったでしょう。】

- へそのおが首にからまってなかなか生まれなかったけれど、2時間以上かかってやっと生まれた。お母さんに苦勞かけたなあ。
- 生まれるときにすごく弱っていたらしい。だからお母さんのおなかを切って出た。
- 生まれたときにぼくはアトピーでした。お母さんはすごく心配していました。
- 生まれたとき、体重が軽くて体も弱くて保育器に長い間入っていました。気管が細くて、せきがよく出ていたらしいです。だから、お母さんたちが心配していたそうです。
- 片方の目は開いていて、もう片方はちょっとしか開いていなかったらしい。だから、心配したそうだ。

本時で扱った資料「ハナコ」は、校区にある牧場の方から聞いた話を基に作られている。児童は、昨年の総合的な学習の時間にこの牧場を訪問している。そのため、終末でVTRを視聴した際、この話が昨年訪問した牧場での話だと知って、大きく心を打たれたようであった。VTRを食い入るように見る姿にそのことがよく表れており、心に余韻を残しながら学習を終えることができた。

終末の工夫として、赤ちゃんが自分の力をふりしぼって狭い産道を通して生まれてくることや、母親が命がけで赤ちゃんを産み出そうとすることを話すことで、当たり前のように思っている自分の生命も、実は生まれ・産み出す二つの力が重なり合って今ここに存在していることに気付かせ、自分の生命を大切にしようとする思いを高められるようにすることも考えられる。

また、本時の学習を保護者参観の折に実施し、展開後段で、参観している保護者から出産の苦勞や子どもたちへの思いを語ってもらうと、学習が子どもたちの心に更に響くものとなるであろう。本学習をきっかけに各家庭でも話をしてもらうなど、家庭との連携の中で、子どもたちの心に育ちつつある道徳的価値をより豊かで確かなものにしていくことが期待できる。

7 生命尊重にかかわるその他の資料

「ヒキガエルとロバ」	文部省 道徳教育推進指導資料（指導の手引き）3
「生きているしるし」	文部省 道徳教育推進指導資料（指導の手引き）3
「命見つめて」	奈良県教育委員会 小学校道徳番組「ひとみかがやくとき」
「大切な『いのち』」	奈良県道徳実践活動学習教材「ひびき合う心」中学年編
「大切な命」	奈良県教育委員会 小学校道徳番組「笑顔いっぱい」

ハナコ

「お父ちゃん、ハナコのようにすがおかしいで。」

愛(あい)は小学校三年生。愛の家は牧場で、五十頭ほどの乳牛を飼(か)っています。ハナコは、もうずいぶん年をとったため牛でした。愛は、小さいころからよくハナコの世話をしてきました。今、ハナコのおなかの中には子どもがいます。愛は、その子が生まれてくるのを楽しみにしていました。

ある秋の日のこと、いつものように小屋に行った愛はびっくりしました。ハナコがぐったりと横たわって、立つこともできないようすなのです。いつもよく食べるほし草も、ほとんど食べていません。

「今年の夏は暑かったし……もうハナコも年やしなあ。これは、もう何日ももたんかもしれん……。」

ハナコを見て、お父さんは、つらそうな声で言いました。

「それじゃ、おなかの子はどうなるの。」

愛が聞くと、お父さんは顔をくもらせて何も言いませんでした。

ハナコは、日に日に元気がなくなり、じっと目をつぶっていることが多くなってきました。愛の目にも、もうハナコの命が長くないことが分かりました。愛は、毎朝、起きるとすぐハナコのようなすを見に行きました。

ある日の朝でした。いつものように愛が小屋に行くと、なんとハナコがぼちりと目を開いているではありませんか。いつもはぐったりとしているのに、今日はもぞもぞと体も動かしているのです。

「お父さん、お父さん。ハナコが元気になったよ、お父さん。」

大よろこびで、愛はお父さんをよびに行きました。お父さんは、ハナコを見て、

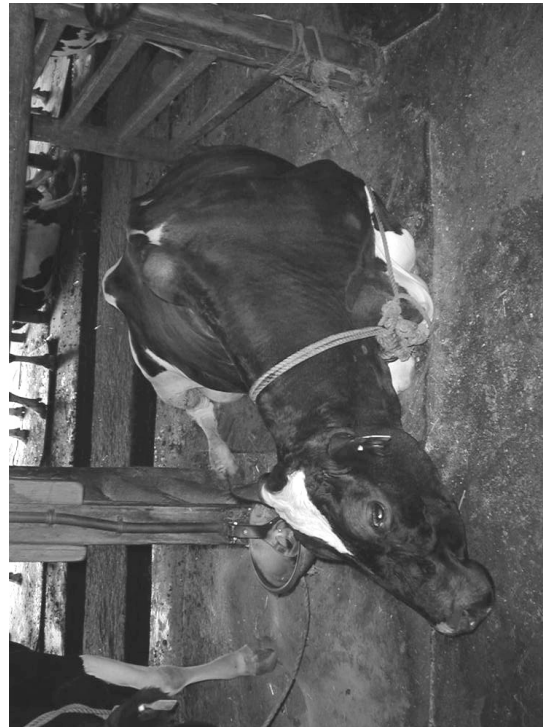
「あっ、赤ちゃんが生まれそうなんや。」

よく見ると、ハナコはおしりをつき出して、力を入れています。つい昨日(きのう)までのハナコとちがって、全身に力がみなぎっていました。

「ハナコ、お医者さんをよんでくるからな。」

そう言ってお父さんは、あわてて走って行きました。

愛は、



「ハナコ、がんばれ。」

と言いながら、せなかを一生けんめいさすってやりました。

じゅう医さんが来てから、かなりの時間がたちました。ハナコはとても苦しそうです。しかし、なかなか子牛は生まれてきません。

「もう少しなんだが……。」

とうとう、お父さんとじゅう医さんの二人がかりで、子牛の足をつかんでひっぱり出すことになりました。二人ともひたいにあせをうかべて、ひっばっています。ハナコも、全身で息をしながら、一生けんめい力を入れていました。

「やった。生まれた。」

とうとう生まれたのです。お父さんは、あせびっしょりになりながらも笑顔で、生まれたばかりの子牛をだいています。

「よかったね。ハナコ。よくがんばったね。」

愛は、まだあらい息をしているハナコに言いました。

「死にそうだったハナコが、こんながんばるなんてなあ。このぶんじゃ、ハナコはこれからまだまだ元気になりそうやな。」

そう言うお父さんにうなずきながら、愛はうれしい気持ちでいっぱいになりました。

それから何時間かがたちました。

「愛……ハナコが死んでる。」

お父さんの声におどろいた愛が小屋へ行くと、さっきあんなに元気だったハナコが、しずかに目をつぶって横たわっていました。

(うそ……。)

愛の目に、みるみるなみだがあふれてきました。

「ハナコ、さいごの力をふりしぼって子牛をおなかから出したんやな……。」

そう言うお父さんの目にもなみだが光っていました。なきながら、愛は、さっきまでひっしに新しい命を生み出すためにがんばっていたハナコのすがたを思い出していました。もうじつと動かないハナコに、さっき生まれてきた子牛が元気にじゃれついていました。

